

## 普及活動検討会実施報告書

( 石巻 ) 農業改良普及センター  
 実施月日：令和4年2月3日  
 実施場所：石巻合同庁舎(石巻市)  
 (単位：人)

### 1 検討内容

No	検 討 項 目
	総合検討 1) 令和3年度プロジェクト課題(4課題)について N01 被災農地における土づくりの推進による生産性の向上 N02 組織力強化による農業法人の経営ステップアップ N03 県育成品種「にこにこベリー」の収量安定化 N04 地域活性化に向けた高収益作物(アスパラガス)の導入・定着 2) 令和4年度普及指導計画(案)について (1) 令和4年度普及指導計画概要(案)について (2) プロジェクト課題の計画(案)について (3) 質疑応答・総合コメント

### 2 検討委員の構成

区 分	人数	区 分	人数
先進的な農業者	2	生活者	
若手・女性農業者	1	学識経験者	
市 町 村	2	マスコミ	
農業関係団体	2	民間企業	2

### 3 委員の評価と普及センターとしての対応方向

検討項目	評価値 平均値	評価結果(評価のコメント)	普及センターとしての対応方向
プロ課題の進捗状況  課題No.1 被災農地における土づくりの推進による生産性の向上	4.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被災地域の土づくりについて、地域内資源の活用が行われ、かつ、収量実績に結び付いたことは、営農の継続という観点からも非常に喜ばしいことだと思われま。</li> <li>・稲わらと堆肥の交換利用は、被災地の田の養分が少ないことを考えるとあまり望ましくない。経費はかかるが、当面は堆肥の購入が望ましい。</li> <li>・長面地区での収穫量増、単収増が小作契約者にも影響するため引き続き支援をお願いします。</li> <li>・乾田直播の導入により、労働時間が分散され、かつ収量実績が伴ったということで、農業者の所得確保に結び付けられ非常に評価できる。</li> <li>・まだ改善できる点(早期播種など)や農業農村整備部と連携したハードの修正など、経営安定に向けた課題はまだあると思われましますので、尽力を期待します。</li> <li>・継承する若者の人材育成も並行していくことで、5年後10年後の持続可能なものとなっていくと思われる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現地検討会、成績検討会を通じて、対象3法人が、改めて実証ほどの堆肥散布による増収効果を実感したとの感想をいただいております。</li> <li>・堆肥散布による増収効果が、経費試算においても収入増につながる事がわかり、継続した堆肥散布を誘導していきます。</li> <li>・直播に適したほ場を選び、ケンブリッジローラーを導入、課題であった除草対策を徹底することで、移植栽培と遜色ない収量が確保できました。</li> <li>・併せて乾田直播栽培導入による土地利用型法人の稲作部門内の労働配分(春と秋作業)の平準化効果が確認されましたので、引き続き乾田直播栽培の定着、所得向上を図る取組について支援してまいります。</li> <li>・人材育成については、法人だけではなく、今後、地域や関係機関が連携し、取組んでいく予定です。</li> </ul>

検討項目	評価値 平均値	評価結果（評価のコメント）	普及センターとしての対応方向
課題 No. 2 組織力強化による農業法人の経営ステップ	3.9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水田部門と園芸部門の労働力配分が情報共有の場で納得のいく形で実現されたことは、震災後の土地利用型法人が展開する複合部門の良い事例になると思われます。今後は、横展開を期待します。</li> <li>・社内での情報共有，社内組織体制，内規整備，人事評価等重要な課題の整理を行ったと思います。 今後も部門間の調整，社内でのコミュニケーションの取り方，若手社員の教育等についてご指導，支援をお願いします。</li> <li>・わかりやすい標準作業書を作成し，社員・パートが同じ手順で同じ目線で作業できるようにしたことは非常に評価できる。</li> <li>・今後は，作業標準書の蓄積，最新版管理を支援し，真に「使える標準書」になるように支援を続けてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報共有化のため各種会議（部門，リーダー・役員，全体）を誘導してきました。その結果，様々な課題を社内で整理，解決しようという機運が出てきました。引き続き解決に向けた改善を支援していきます。</li> <li>・中長期計画策定において，部門別の経費の把握，目標の設定等を行っています。目標達成には，社員全員が力を発揮できる環境づくりも大切であることを指導していきます。</li> <li>・標準作業書が十分生かされ，人材の育成にもつながるよう，病虫害防除だけでなく他の分野での作成や更新されるよう支援していきます。</li> </ul>
課題 No. 3 果育成品種「にこにこベリー」の収量安定化	3.9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・果房折れや摘果など，品種の特性に応じた対策が講じられ，収量の向上，良質な苗の生産等に結びついたと思う。</li> <li>・これまで蓄積したデータがデジタル化（DX化）され，蓄積してよりよいものになるようにしてほしい。</li> <li>・今後の栽培面積拡大は，にこにこベリーの品種特性を生かした出荷先の工夫を行うなど，JAとの話し合いも必要ではないか。</li> <li>・旧石巻地区は直売の比率も高い事が「にこにこベリー」の導入の課題であったが，収量実績からの5tを超えてくる生産が安定してできるのであれば品種選定の優位性が高くなる。収量差の要因についてさらに追及してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「にこにこベリー」の特性に合わせた栽培管理と環境制御技術の定着により，多くの生産者が従来の品種よりも収量を向上させることができました。今後は品質向上に向けた指導を継続していきます。</li> <li>・これまで得た様々なデータを令和4年度の新規プロジェクト課題に活かしていきます。</li> <li>・生産者が栽培面や出荷先により，品種の特性を踏まえ品種を選択できるよう，継続して支援していきます。</li> </ul>
課題 No. 4 地域活性化に向けた高収益作物（アスパラガス）の導入・定着	3.4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年は病害発生，収量性など，作付けしたからこそわかる課題に直面し，生産者の不安・迷いが出始めていることとされます。</li> <li>・持続可能な生産販売に向けた取組の中長期計画など，戦略的な視座を持って進めて欲しい。</li> <li>・パイプハウスでの立茎栽培も含めて，出荷時期の拡大を目指した栽培方法も視野に入れ，安定生産・出荷を検討してほしい</li> <li>・苗代が高いので，採りつきり栽培の経営収支をしっかりとシミュレーションしてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「採りつきり栽培」の出荷が始まり，排水対策や霜の影響，病虫害防除対策の徹底が不可欠である等，新たな課題が見えてきました。</li> <li>・アスパラガスの産地化を考えていく上で，採りつきり栽培とパイプハウスでの立茎栽培の体系化や経営収支の整理，輪作体系の検討等を今後行ってまいります。</li> </ul>

	評価値 平均値	活動に当たっての助言等	普及センターとしての対応方向
令和4年度普及計画(案)について	4.2	<p>●プロジェクト課題</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. いちごの産出額向上 高齢化・後継者不足による生産者数・生産量の減少が着実に進む中であって、いちごの生産者全体に対する取組はに期待します。産出額向上のみならず、こうした取組が農村・後継者への変化を生じさせる一手になればと思います。</li> <li>2. 園芸法人の育成強化 新規導入機器の有効活用や経営安定に向けた支援ということで、産地全体への広がりも期待されると思います。</li> <li>3. 高収益作物の導入・定着 最終年度となりますので、採りつきり栽培の課題を整理し、立茎栽培との組み合わせを検討し、農家への導入・定着による販売額の向上が見えるよう期待します。</li> <li>4. 持続的な水田農業の実現 土づくりと施肥を組み合わせた収量安定は、大規模土地利用型経営体の持続的な水田農業の実現には必須なものです。肥料価格が急騰している中、緑肥なども含め、広い視野での対応をお願いしたい。</li> </ol> <p>●重点活動</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 土地利用型園芸品目の生産振興支援 主食用米からの転換で土地利用型作物へシフトしますから、生産が安定するよう指導願います。</li> <li>2. 新規就農者の確保・育成支援 新規就農者のみならず、農業にかかわる人を増やすため、「半農半X」対象の事業も必要かと思えます。</li> <li>3. 法人経営体の経営安定支援 法人経営は地域全体の農地を預かることが多く、経営が行き詰まると地域全体に影響しますので、一層の支援をお願いします。</li> </ol> <p>・新規課題もあり、継続課題もあって良いと思います。これまでに増して事業者目線(より楽に、より儲かる)で対応して下さるともっと良いと思います。</p> <p>・4つのプロジェクトのうち、新たに3つが、令和4年度から、それぞれ複数年による取組みということであるが、支援した結果が、将来的に、目に見えるものとなること、生産者の喜びにつながるものになることに期待したい。</p>	<p>・プロジェクト課題については、新規3課題、継続1課題となります。</p> <p>・新規課題については、石巻地域全体の園芸粗生産額の向上を目指し、管内最大の産出額をあげるいちごの生産性向上や施設園芸法人での安定生産を支援していきます。</p> <p>・また、米価下落により打撃を受けた大規模土地利用型法人に対し、持続可能な水田農業経営ができるよう支援してまいります。</p> <p>・施策の動向等を踏まえ、重要性・緊急性の高い項目について取り組むべき重点課題としては、新規が1課題、継続が3課題となります。</p> <p>・新規の課題は、米価下落対策として期待される土地利用型園芸品目の生産振興支援を行っていきます。</p>

その他 御意見，御要望やお気づきの点がありましたら記載してください	普及センターとしての対応方向
<ul style="list-style-type: none"> <li>・農村社会では，農業に無関心な世代が増えてきました。水路払いなどの共同作業は実施しにくくなっています。「半農半×」は兼業農家を増やすことになりませんが，農業に携わる人を増やすこと，底辺を拡大することが必要だと思います。</li> <li>・新規就農者については，ワンストップサービスとまではいかないものの，関係機関が一体となった確保・支援・育成のスキームづくりが進められていると思います。最近では，移住・就農という事例も発生していることを鑑みれば，「住」に対する支援も併せて検討が必要となるはずです。そういった点も含めて，新規就農者が「〇〇しやすい」という環境整備をあらためて，関係機関が一体となって進めていかなければならないと感じております。</li> <li>・園芸施設への環境制御システムの導入が増えていますが，その効果をまとめていただきたい。</li> <li>・「経営安定」の定義は，各事業者で異なる部分がありそうです。指導員の皆様には，支援開始の比較的早い段階でその考え方や優先順位について事業者とのすり合わせをすべきと思います。より成果が上がり，満足度の高い支援になると思われます。</li> <li>・限られた予算と人員で，可能な限り多くの課題に対応されている事がよくわかります。普及センターの活動について農業者はわかっていますが，一般の方の理解は進んでいないように思います。今後は，一般の方々を巻き込んだ農業振興が大切かも知れません。そこで普及センターには，一般向けの情報発信にも力を入れて頂ければ幸いです。</li> <li>・昨年の米価下落により，水稻栽培から高収益作物への移行が，生産者が求められている。このような中で，農業経営として，採算性のあるものへの取り組みを行っていくことを，真剣に考えていく必要が高まっており，どこへ何を作付けしていこうかと悩んでいる生産者に対する更なる指導や支援をお願いしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規就農にかかる相談は，秋以降増加しており，IターンやUターン，他産業からの参入等，これまで農業と関わりのなかった方々からの相談となっています。</li> <li>・相談窓口のみならず，関係機関との情報共有を進め，支援体制を組むと共に，年2回の新規就農者確保・育成戦略会議を行い，課題の整理，体制づくりの強化を進めていきます。</li> <li>・プロジェクト課題でも環境制御技術の支援を行う予定であり，その効果もしっかりと把握し，広く波及したいと考えています。</li> <li>・最も大切なことをお示しいただきました。今後の経営指導の際は，しっかりとすり合わせを行い，伴走型で支援してまいります。</li> <li>・一般の方への情報発信は，HP，ブログ，東部地方振興事務所の地域だより等ですが，メディアへの情報提供も増やし，力を入れていきたいと思っています。</li> <li>・主食用米から高収益作物への転換は，大きな課題です。生産支援のみならず，労働力，採算性，販路，作付け計画等，将来を見据えた一体的な取り組みを行う必要があります。関係機関の皆様と連携を図り，進めていきたいと考えています。</li> </ul>